

2021年度研究メンバー(所属, 専門領域)

◎研究代表者, ○サブリーダー

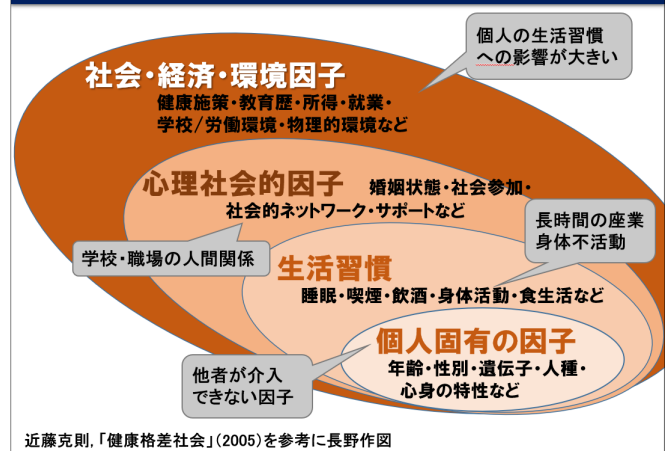
◎長野 真弓(食・健康学科, 教授, 体力科学/運動疫学), ○太田 雅規(食・健康学科, 教授, 公衆衛生学)

石川 洋哉(食・健康学科, 教授, 食品分析学), 南里 明子(食・健康学科, 准教授, 栄養疫学), 梅木 陽子(食・健康学科, 准教授, 栄養教育学)

### リサーチコア設置の背景

- 「健康」は、世界を支える持続可能な17の開発目標(SDGs)の1つであり、**人々が行う全ての活動を下支えるものである。**
- 近年の健康支援の潮流は、単に「病気でない」状態というよりもむしろ、**心身の健康を積極的に獲得し、生涯を通じて活力ある生活を送り、尊厳あるエイジングを目指す、より高いステージに突入している。**
- 福岡県民意識調査結果(平成27年度より毎年実施)自身の幸福度を判断する際に重視した項目のうち、「**健康状態**」は、**常時トップ5にランクイン、特に女性では1~2位と高い。**
- 心身の健康は、**個人固有の因子のみならず、それを取り巻く多様な因子の影響を受ける(右図)ため、生活習慣改善を個人の努力に委ねる策だけでは効果が限定的である。**  
⇒ **学校・職場・地域への「ポピュレーション(大規模集団)アプローチ」や、社会環境(ハード・ソフト)の整備が必要。**

### 個人の心身の健康を規定する因子の概念図



### リサーチコアの目的

- **研究と実践の両輪による健康支援活動の展開**  
異分野の研究者が横断的に連携した調査研究の**エビデンスを学校・企業・地域の健康施策や実践活動にフィードバックし、健康課題の改善、ひいてはSDGs(No.3, 全ての人に健康と福祉を)の達成に貢献する。**
- **本学教育の質の向上**  
本リサーチコアの研究成果を**本学教育にも反映**させ、学生の学びを深める。リサーチコアの活動を通じて学生に実践の場を提供し、**社会の課題解決に異分野・異機関が連携してあたる必要性**を理解させるとともに、**実践経験に基づく知**を身につけさせる。

### リサーチコアの特徴

- 異分野の研究者が、疫学的調査・研究手法や実験的手法を用い、**心理社会的因子・環境も含む多角的な視点**で質の高い健康支援のエビデンスを構築する。
- 健康支援の**現場での実践活動**や、**外部機関・企業との調整および連携活動**にも長けており、さらなる外部資金獲得が期待できる。
- 女子大学の使命として**女性の心身の健康支援をリード**することにより、グローバルに活躍する女性の育成に貢献できる。

### 2021年度の主な実績

- **調査研究(連携先)** **学会発表12件、査読あり論文18編、報告書その他2編**  
・職員の健康支援にかかる調査(古賀市、福岡県庁食堂、北九州市役所)  
・本学におけるナッジとエクササイズ動画をを用いた遠隔での健康支援の効果検証  
・本学卒業生を対象とした女性の健康と食に関する疫学研究  
・健康食品開発(株式会社新生堂薬局)
- **実践・教育活動(連携先)**  
・福岡女子大学公開講座「シニア世代の心身の健康と身体活動」  
・本学学生・教職員へのエクササイズ動画配信活動(株式会社ミキファニット)  
・企業と連携した食品開発(三島食品株式会社)  
・出前講義「ダイエットと運動にまつわるウソ・ホント」(須恵高校・春日高校)  
・地域住民の健康支援への助言(東体育館・福岡スホレクマネジメントグループ)  
・香住丘公民館における健康教室(新生堂薬局)
- **外部資金獲得状況** **研究期間における総額: 8,330千円**  
・【新規採択】令和3~6年度科学研究費助成事業 基盤研究(C), 研究代表者・南里明子, 4,160千円, 「糖尿病予防のための食要因に関する職域疫学研究」  
・【受託研究】令和3年度健康・医療関連産業創出支援事業費補助金(広島県), 受入研究者・石川洋哉, 全体6,000千円, 受入額400千円, 「赤しそ由来のロスマリン酸及びアントシアニン類成分による機能性表示食品(サプリメント)の商品化」(連携先: 三島食品株式会社)  
・【継続】令和1~4年度科学研究費助成事業 基盤研究(C), 研究代表者・長野真弓, 3,770千円, 「子どもの認知・非認知スキルへの身体活動・体力の貢献とメカニズムに関する縦断的検討」  
・【不採択】令和3年度スポーツ庁Sports in Life「スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験」, 申請者・長野真弓

### 2022年度の活動

2022年度は、メンバー構成を変更して以下の新規・継続調査研究と実践活動に臨む。これらの活動を通じて各ライフステージの健康課題を抽出し、全学的検討を経て質の高いエビデンスを創出しながら健康保持増進に貢献していく。そして、最終的には「尊厳」のあるエイジングを目指す。この取り組みは、「国際フードスタディセンター」の構想とも合致する点が多いことから、センターでの事業展開も念頭に置いている。さらに、将来的には「産」も交え、文部科学省「共創の場形成支援プログラム(地域共創分野)」の申請へと活動を深化させていく。

- **メンバー構成の変更**  
代表研究者: 長野 ⇒ 太田, 副責任者: 太田 ⇒ 南里, 新規: 小崎 智照(環境科学科・准教授・環境人間工学)、若竹 雅宏(環境科学科・准教授・建築計画学)
- **調査研究**  
・【新規】福女大卒業生コホート研究  
・【継続】福岡県庁食堂における追跡調査、古賀市職員における3年後のフォローアップ調査、本学構成員への健康支援(Stay Active Project)の成果公表  
・【新規検討事案】地域包括ケアシステム構築への参画(福岡県立大との共同研究)
- **実践活動**  
・福津市との連携活動「かんたん・おいしい・ヘルシープロジェクト(案)」  
・企業と連携した健康食品開発(新生堂薬局)  
・東体育館(福岡スホレクマネジメントグループ)との連携活動  
・宇美町との連携活動「うみっ子健診」を介した町の健康保持増進・介護予防  
・食、身体活動、睡眠および環境の視点からの健康支援に関する講演・出前講義